

教育と文化

No.134

令和6年3月



Contents

- 2 巻頭言「ていねいに「今」をつむぎ、未来へとつなぐ」
- 4 三河の文化を訪ねて「知立まつりの山車文楽・山車からくり」
竜北中（知立）
- 6 教育随想「本物とは、人の心に響く音」
三浦太鼓店 六代目 三浦彌市
- 7 教室の窓辺「自分や他者を尊重し、前向きに生きる」
南部中（幸田）
- 8 令和5年度 教育図書出版助成・個人研究助成
- 10 令和5年度 かきぞめコンクール
- 12 令和5年度 みかわ彩発見 絵画コンクール
- 14 特色ある教育活動
『「本気で考え・語る生徒」の育成を目指して』
石巻中（豊橋）
- 15 学校教育ボランティアグループ活動紹介
山中小（岡崎）・亀山小（田原）
- 16 文振だより「デジタル採点支援システム」
4月 提供開始



公益財団法人
愛知教育文化振興会 副理事長 鈴木 佳樹

巻頭言

ていねいに「今」をつむぎ、 未来へとつなぐ



桜井小学校マスコットキャラクター
「さくりん」
2021年生まれ

ある雨の日、歩道橋下で、登校の様子を見守っていました。最初の班は、1年生が滑り落ちないように、班長がその手をしっかりと握って下りてきました。班長の濡れた肩に、1年生を守るというやさしさが表れています。次の班長は一段一段、振り返りながらゆっくりと下りてきました。すぐ後ろにいる1年生が焦らないよう、あえてゆっくりにしていることが伝わってきます。最後の班長は、先に下りて階段下で立ち止まって振り向き、1年生に慌てないようにと声をかけていました。下り方はそれぞれですが、1年生を思う班長の心は同じです。

「『こころ』はだれにも見えないけれど、『こころづかい』は見える」。私は「ていねいな生き方が育つ学校」を目指しています。

家庭と地域の教育力を生かす

ていねいな生き方を育むために、家庭と地域をはじめとする大人の力を生かすことにしました。生き生きと「今」をていねいに生きる大人とのかかわりのなかで、桜井っ子が心豊かに育つことを願ったのです。

3年の子どもたちは、地域の高齢者を元気にしたいと精力的に活動されている高齢者とかかわりを通して、「高齢者が高齢者を元気づける」という考え方に感化され、「自分たちも何かしたい」と動き出しました。

11月下旬、5日間にわたり、学級ごとに、思いと工夫が詰まった『さくりん ふれあい祭り』を開催しました。「この半年、落ち込んで引きこもりがちだったけれど、今日は思い切って参加して

生活科・さくらい学習単元一覧

- 1年…… がっこう だいすき さくらい だいすき
- 2年…… ぼくわたしの 大すきな さくらい
—さくらい たんけんたい—
- 3年…… みんながくらしやすいまち 桜井
—桜井学区の福祉を見つめる—
- 4年…… 桜井クリーン隊
—桜井学区の環境に学ぶ—
- 5年…… ぼくらは さくらい 米米クラブ
—何より 大切なものを
気づかせてくれたね—
- 6年…… わたしたちがつなぐ 桜井の思い
—地域の魅力、地域の思いから
桜井の未来を考える—
- さくら組… さくらカフェを開こう
—桜井学区のお店との交流—



さくりん ふれあい祭り

からは、「自分で計画を立て、アトラクションを楽しむ」「ゲストを楽しませるホスピタリティの精神を学ぶ」「笑顔で働くキャストから、表現力、コミュニケーション力を学ぶ」など、「ラーケイションの日」にふさわしい目的を親子で一緒に考え、意義ある日にしようとする姿勢が伝わってきます。

子どもの心豊かな成長に支える大人の役割について、改めて考えさせられます。

ていねいな生き方を体現する

11月中旬、さくら組の子どもたちから、『さくらカフェ』への招待状が届きました。桜井の和菓子屋を訪ねて研究した、自慢のどら焼きとお茶をふるまうカフェです。残念ながら、出張があり、開店中に向くことはできません。

そこで、さくら組の子どもたちにこんな手紙を書きました。

「さくら組のみなさんへ ご招待ありがとうございます。お仕事で行くことができません。だから、どら焼きを2つ、テイクアウトでお願いできますか。12時に取りに行きます。500円玉を持っていくので、お釣りの用意もお願いします。」

「いらっしやいませ。」出張から戻り『さくらカフェ』を訪



『さくらカフェ』へようこそ

れると、たった1人の客のために子どもたちが笑顔で迎えてくれました。心のこもった手づくりのどら焼きは、家に帰っておいしくいただきました。ていねいな生き方の積み重ねの上に表れる、普通のものに宿る美しさを、これからも変わることなく、ていねいにていねいに育んでいきたいと考えています。

ていねいに「今」をつむいでいく

12月中旬、豊田市美術館で開催されていたフランク・ロイド・ライト展に足を運びました。世界を横断して活躍したライトのグローバルな視点は、現代社会における今日的な課題、そして来るべき未来への提言となるものでした。

そのなかで、私は、1957年、イスラム文化圏への提言として計画された「大バクダッド計画」に対する彼の思い「建築化は、そこに存在している美を見るべきである。美を成立させている自然の性質を理解し、それを生かす努力をしなくてはならない。」に共鳴しました。

愛知教育文化振興会も、設立以来目の前にいる三河の子どもたち、そして、三河の教師たちに目を向け、三河の教育の笑顔あふれる未来を描きながら、よりよい教育環境を提供し続けてきました。GIGAスクール構想の推進によって教育環境が大きく変わりましたが、現場や時代の要請に応えるために、令和6年度には「デジタル採点支援システム」を導入します。

時代がどう変わろうと、子どもたちの「今」をていねいに見つめ、ていねいに「今」をつむぎ、未来へつないでいくことが大切だと考えます。

家庭教育の在り方を問い直す

本年度10月から、新しく「ラーケイションの日」が設けられました。子どもが、保護者等とともに、校外（家庭や地域）で、体験や探究の学び・活動を、自ら考え、企画し、実行できる日です。こうした趣旨は、大人にはどう届いているのでしょうか。各家庭から提出される「ラーケイションカード」からは、親子のかかわりが見えてきます。



『さくりん』大凧づくり

例えば、テーマパークに出かける家庭のカード

ユネスコ無形文化遺産

国指定無形民俗文化財

知立まつりの山車文楽・山車からくり

知立市立竜北中学校 教頭 杉浦 卓次

知立5町が江戸時代から引き継いできた人形浄瑠璃芝居が、今年5月、6年ぶりに再開する。

知立まつり

知立神社の祭礼である「知立まつり」は、1年おきに本祭と間祭が5月2、3日に行われます。山車の上での文楽、からくり人形芝居の上演は、江戸時代から続いています。

本祭は、山町・中新町・本町・宝町・西町の5つの地区から、高さ7メートル、重さ5トンの5台の山車が繰り出されます。お囃子に合わせて巡行するさまは大変優雅です。さらに、山車の上で奉納上演される人形浄瑠璃芝居の山車文楽とからくりは、ともに江戸時代から伝承されている郷土芸能です。かつては、山車の上段でからくりを、下段で文楽を上演していました。現在では、西町だけがからくりを、他の4町が文楽を上演しています。

このままでは、祭りが衰退する考えた関係者は、間祭に花車を復活させたという若衆の思いを受け、祭を取り仕切る祭惣代の寄合である五ヶ町寄りに働きかけ、祭惣代の承諾を得ることができました。そして1975年、若衆を中心とする間祭は復活しました。さらに同年、祭りの人形遣いの後継者不足で悩んでいた山町の知立山車文楽保存会長の神谷定一氏は、山町の青年の集まりの「青友会」に声をかけ、山車文楽を復活させることができました。その後、そのメンバーが、知立山車文楽保存会の主要メンバーとなり、山車文楽の上演の中心となっていきました。



山車文楽

4月はじめに各町で、宿開きが行われ、梶棒連、囃子連、人形連（西町は唐練連）がそれぞれに分かれて約1か月の準備・練習を行います。町内での稽古上げで、囃子や人形の練習成果が披露され、祭りを迎えます。当日は、各町内の山車蔵から山車が出発し、町内を運行しながら旧東海道に勢ぞろいします。5町が順に知立神社への宮入りを行い、その後、順番に境内で文楽やからくりを上演します。

このような動きの中、1977年には、全国で31件の「記録作成等の措置を講ずべき無形の民俗文化財」の一つに、知立山車文楽が選ばれました。それ以後、メディアに取り上げられることも多くなり、祭礼保存の機運が高まってきました。

危機を乗り越え

ユネスコ無形文化遺産へ

1990年には、山車文楽保存会とからくり保存会がまとまり、知立の山車文楽とからくりが一体となって、国指定の無形民俗文化財となりました。さらに1992年6月には、イタリアで開催された世界人形劇フェスティバル92第16回ウニマ大会にからくり・文楽保存会より総勢25名が参加しました。

このように、知立の山車文楽とからくりの名声が高まる中、人形の後継者育成はそれぞれの町だけでは難しい、と強く感じた山車文楽・からくり保存会は、市からの予算の交付を受けて、後継者育成を始めました。1992年には、「知立市義太夫会」を発足させ、豊澤千賀龍師匠の指導のもと、稲垣春喜さんの協力を仰ぎ、地元の大夫育成に乗り出しました。竜北中学校には山車文楽クラブが発足しました。2000年には、知立市文化会館が

開館しました。同年10月には、シアターカレッジが開講し、人形遣い・語り・三味線の稽古が進められました。「講座文楽・人形遣い」の講師は、吉田清之助（現在の豊松清十郎）氏でした。本来は、各町内で育成すべき人形師・三味線、義太夫等をシアターカレッジで育成することになりました。こうして、人形遣いに関係する後継者の育成が、それぞれの町の枠をこえて始まりました。

1996年には、知立山車連合保存会が立ち上げられ、「全国山・鉦・屋台保存連合会」に加盟しました。



山車からくり

戦後の山車文楽・からくり

1948年に山車奉納が再開されました。その後、高度成長期を迎え、祭りを担う町民の多くがサラリーマンとなり、レジャーが多様化したこともあって、祭りにかかわる者も次第に減り、特に人形遣いの後継者が目に見えて減ってきました。そのため、祭りを文化財として登録することで、その存続を図ろうとする町の動きが出てきました。1956年に、山町・中新町の人形浄瑠璃が、「知立の山車文楽」と

2014年には「全国山・鉦・屋台保存連合会知立大会」の総会・研修会が、知立まつりに合わせて開催されました。そして、2016年、知立まつりの山車文楽・からくりが、山・鉦・屋台等と呼ばれる山車が巡行する全国33か所の祭とともに、ユネスコ無形文化遺産に登録されました。祭礼時には、登録以前にも増して観光客が増え、山車文楽・山車からくりの人形上演が大きくクローズアップされるようになりました。

おわりに

ところが、2020年からはコロナ禍のため、思うように人形公演ができなくなりました。このような状況においても各町の祭り関係者は、2021年以降も文楽・からくりの稽古を地道に続けてきました。市内での人形上演を披露する機会を設け、その技術を途絶えさせることなく、継承し続けてきました。

来る5月には、6年ぶりに本祭が行われます。伝統的な知立まつりが続いてきたのは、祭り関係者の永続的な努力の賜物であることを忘れてはなりません。



山車5輛勢ぞろい

【写真提供】知立市歴史民俗資料館 水野 雅之氏

本物とは、人の心に響く音

株式会社三浦太鼓店
六代目 三浦 彌市（三浦 和也）



Profile みうら やいち

昭和55年生まれ。
慶応元年(1865年)創業、愛知県岡崎市に店を構える三浦太鼓店の六代目。
家業として受け継いだ大切な「伝統」を後世へと残すべく2011年に株式会社へ法人化し、2020年には新店舗をオープン。「人の心に響くモノづくり」をテーマにその礎を築いてきた。

突然ですが、皆さんに質問です。ご存知「和太鼓」という楽器は、日本の祭りや神事に欠かすことができない楽器であり、言葉ではよく日本の「伝統的な楽器」と表現されます。さて、その「伝統」とは、一体何でしょうか。そこにどんな意味があると思いますか。

和太鼓に関わらず、我々が住むこの日本には、昔から大切に受け継がれてきた「日本特有の文化」が幾つも存在しています。今さら聞くまでもなく「伝統」というのは、昔から大切に受け継がれてきたモノであることは皆さんご存知のとおりです。

しかし、ここでとても大切なお話があります。「伝統」「昔から受け継がれてきたモノ」、このことは誰もが理解しているし、辞書を引いてもやはりそう書いてあります。

では、なぜ伝統は途絶えることなく受け継がれてきたのでしょうか。一度、深く考えてほしいです。何不自由のない現代社会の中で生きる我々現代人。モノに溢れ、壊れたら買い換えるというのが当たり前の日常の中で、「和太鼓」という楽器は、何十年、何百年も昔から姿形が変わることなく、今なお受け継がれています。

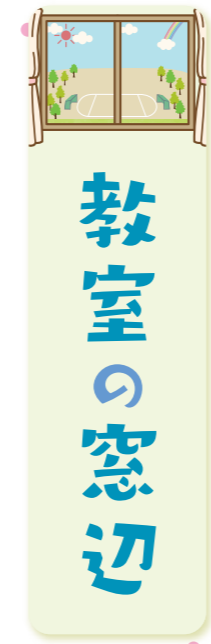
何が言いたいのか、というと、歴史を通じて受け

継がれるモノというのは、受け継がれるべき「理由」が必ず存在しているのです。受け継がれてきたモノには「理由」があるし、逆に受け継がれないモノにも同じく「理由」があるということです。

以前、NHKのある番組で、今は亡き歌舞伎役者の十八代目中村勘三郎さんが、次のようなお話をされていました。「型があるから『型破り』、型がないのはただの『型なし』だ」と。型破りな演技というのは確固たる「基礎基本」が土台にあるからできる訳で、それが無いのはただの「型なし」となります。基礎となる「型」を持ち、それがあるからこそ歌舞伎という世界は何百年経っても色褪せるどころか、伝統に留まることなく、そこに「革新」を加えながら変化することができているのです。

では、和太鼓にとつての土台「型」とは何でしょうか。私はどうしてもその答えが知りたくなりました。そのような時、地元の神社で500年もの昔から使われてきた「古い太鼓」と私は出会い、その答えを受け取りました。

「音が生きています。」これは、その古い太鼓の音を聞いたとき私が感じた感覚です。太鼓というのは、見た目や形の古さは関係ありません。その「音」さえ生きていれば人の心に響き伝わります。



自分や他者を尊重し、前向きに生きる

幸田町立南部中学校 教諭 山本 光莉

本校は、愛知県健康推進学校として、生徒の健康安全に関する研究をしています。教育目標は、「人間味があり、たくましく生きぬくことのできる生徒の育成」であり、それを支える健康な体と心をどのように育てるか日々考えています。その中で、特に自分の大切さとともに他の人の大切さを認める活動に力を入れました。

1つ目は、道徳の授業の実践です。社会的な差別や偏見に目を向けた学習として、「木暮さんのなやみ」障害者ひとりひとりに目を向けてほしい」という動画を視聴させました。「障害者なのに、すごいね」と言われることに、心にひっかかりを感じるといふ木暮さんの言葉を聞いて、今までの自分を振り返って反省をし、褒めているつもりでも、相手に不快な思いをさせてしまうことがあるのだと多くの生徒が感じていました。言葉遣いの難しさを感じるとともに、自分が発する言葉の重みを実感していました。また、障害者に対してだけでなく、友達に対しても、「障害のあるなしに関わらず、相手の性格や気持ちを読み

取って相手が傷つかない発言を心がけたい」と振り返りに記述があり、他者を理解し、言葉選びに気をつけようと考えていました。

2つ目は、朝の会での読み聞かせです。中学2年生は多感な時期で、さまざまな悩みを抱えながら生活している生徒たちに、ヨシタケシンスケさんの「ころばいいのに」という本を選びました。生きている中で、嫌いな人がいてもよいことや生きづらさを少しでも解消する方法を楽しく教えてくれる本です。読んでいるときに、生徒たちから笑い声が聞こえ、読み終えたあとには、「嫌なことがあっても、自分にとつて楽しいことをするのはいい方法だな。ネガティブにならず、毎日楽しく生活していこうと思った」「心がすっきりした。絵本の言葉から元気をもらい、心のよもやが消えたからかな」と前向きな気持ちになれていることがわかりました。

3つ目は、よいところ見つけの取組です。道徳の授業や帰りの会で、学級の仲間のよいところを伝え合う活動を行いました。どの班でも笑顔が見られ、自分のよいところを伝えてもらえる喜び、友達の良いところを見つめる喜びを感じていました。

これらの実践を通して、生徒たちは、人と関わることの難しさを感じながらも、性格や考え方法とさまざまな違いを互いに理解し合い、相手に寄り添う大切さについて考えを深めていきました。今後も生徒たちが自分や他者を尊重し、前向きに生活できる環境づくりをしていきたいです。



友達によいところを伝え合う生徒たち

だから捨てられる事なく、買い換えられることなく何十年、何百年と大切に受け継がれていくのです。その事に気づかせてもらえてから、太鼓屋の6代目としての役割、やるべきことに一切の迷いがなくなりました。

伝統の太鼓作りにとって、何より大切なことは、人の心に響く「音づくり」。「人の心に響く音がある。」のです。その大切な「音」を守るために必要なことは、「技術」を受け継ぐこと、「素材」を守ること、「後継者」を育てること。そして、時代に求められる「革新」を加えること。これらの一つ一つやるべき道に迷いなく突き進んで行くことができました。

最後になりますが、本当に大切なモノは、決して目に見えている世界だけではありません。むしろ、見えていない世界にこそ物事の「真実」はあるのではないのでしょうか。

そう、時代を越えて人の心を響かせる太鼓の音色のように。



桶太鼓の胴づくり

山本教諭は、6年間の小学校勤務を経て、今年度から中学校に赴任してきました。中学校勤務は初めてですが、2年生担任、体育主任、弓道部主顧問として、本校の中心となって活躍しています。

本校は、今年度から愛知県健康推進学校として、目ざす生徒像を「体も心もまっすぐな生徒の育成」とし、研究と実践を積み重ねています。そのため、生徒たちの健康課題を把握し、現在行っている教育活動を、健康教育という観点からも一度見直しています。

今後も、家庭や地域と連携を図りながら、心身ともに健やかで、健康・安全で安心な社会づくりに貢献しようとする態度を身につけた生徒を育てていきたいです。

(校長 鈴木 一也)

令和5年度 教育図書出版助成

本法人では、教育文化の振興と子供たちの健やかな成長を願い、教育図書の出版に助成するとともに、その内容を広報しています。

三河の小中学校教員及び、教員であった個人、これらの方々を代表とするグループが、学校・家庭・地域に関わる教育活動や研究をまとめた図書で、経費の多くを公費等の援助を受けずに出版したものを対象としています。

本年度は、審査会において3点の助成が決定されました。なお、令和6年度の応募要項は、4月中旬から本法人のホームページに掲載されます。

自己の成長を自覚する子ども

著者 愛知教育大学附属岡崎小学校
B5判 128頁 2200円

わたしたちは、本次研究の主題を「豊かに生きる」とし、子どもたちがこれからの時代を生き抜くために必要な資質・能力を身につけ、自らの手で生活を切り拓いていくことを願いました。そのため、問題解決学習とおして、子どもた



ちが自己の成長を自覚することが大切であると考えました。そして、着目したのが内面の成長にかかわる「非認知的能力」です。本校では問題解決の過程において、子どもたちを非認知的能力及び「教科・領域特有の資質・能力」の視点でとらえ、二つの資質・能力を高めるために教師支援を講じてきました。本書は、六年間の実践研究の成果をまとめたものです。

第I章では、求める子どもの姿と本校が考える非認知的能力について説明しています。非認知的能力のモデル図や表れやすい場面を示したり、非認知的能力に着目した教師支援の具体を整理して示したりしています。

第II章では、子どもが自己の成長を自覚する授業の構想と展開について、5年算数科単元をもとに説明しています。目の前の子どもをとらえて願いをかけ、それを具現化する教材を模索・選定し、単

元を構想するといった教師の単元づくりの営みをていねいに説明しています。

第III章では、各教科・くすのき学習における教科・領域特有の資質・能力を図式化して示しました。また、求める子どもの姿に迫るための授業の構想と展開を子どもの姿をもとに説明しています。特に、教師が非認知的能力の視点で子どもをとらえ続けたうえで、どのように教師支援を講じているかを、レイアウトを工夫してわかりやすく説明しました。

第IV章では、各教科・くすのき学習の単元構想図を11実践掲載しています。

先生方にとって、子どもの意識を大切にしたいという思いをまとめたものにした単元づくりや授業づくりのヒントになる1冊です。

元刈谷の歴史

著者 元刈谷地区歴史研究会
会長 都築武夫 他8名

本書は、「元刈谷は刈谷の始まりだけだよ」を合言葉に、自分たちが住む元刈谷の歴史と暮らしの変化に興味を持ってもらいたいという思いをまとめたものです。そこで、ぜひ地域の方々や子供たちに読んでほしいと考え、写真や図、絵、資料を多く入れ、平易な文章で読みやすくなるように作成しました。

令和5年度

「個人研究助成」

審査を終えて

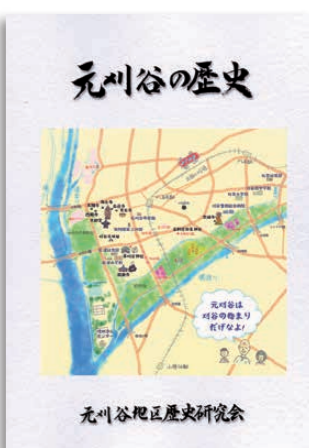
令和2年度から3年間、研究を推進された10名の先生方の論文審査が行われました。

昨今の厳しい教育環境下においても、三河教育の本質をつらぬく力作ばかりでした。ここでは、鈴木佳樹審査委員長の講評の概要とともに、優秀と選出された3名の先生方を紹介します。

講評

審査対象となった論文は、ソーシャルディスタンスという言葉が当たり前となった令和2年度から3年間の、先生方の貴い試行錯誤の歩みが綴られています。コロナ禍にあって、地域住民や市役所職員など、子どもたちの求めに応じて数多くの出会いを設定するなど、子どもたちの実感や手応えを大切にしたこと、追究が深まっていったことがよく伝わってきました。また、GIGAスクール構想により整備された一人一台端末の活用が、とりあえず使ってみる段階から効果的な活用へと進みました。先生方の創意・工夫により、子どもたちが道具の一つとして活用していることを心強く感じました。

最優秀・優秀に輝いた3名の論文は、これから3年間、三河教育会館の2階に展示されます。いずれも三河の教育を推進する原動力となる論文です。ご来館の際にはぜひ、手にとってご覧ください。



内容は次の目次のとおりです。

- 第一章 元刈谷の地名
- 第二章 古代から江戸時代
- 第三章 本刈谷神社にある戦争碑と戦争の記録
- 第四章 昭和の暮らし
- 第五章 神社と寺院
- 第六章 みんなのために
- 第七章 幼稚園・学校

第一章では、元刈谷の地名を取り上げ、昭和三十五年の町名変更以前の旧地名は、地域の歴史的な由緒や特徴ある地形などに由来していることや、元刈谷を「もとがりや」と読む人と「もとかりや」と読む人がいるが、どちらが正しいのかを問題として記述しています。第二章では、約三千年前の縄文晩期の本刈谷貝塚について詳しく触れました。発掘時の苦勞話や発掘された元刈谷式土器が縄文年代判定基準となっており、原状のまま発掘された「盤状取骨墓」が全国的に大評

研究成果論文審査結果

最優秀賞（1名）

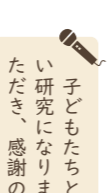
蒲郡市立形原北小学校



近藤 祐輔

主体的に仲間や地域とかかわりながら追究し、動き出す子を育てる社会科学学習

〔社会〕



子どもたちと先生方のおかげで、実り多い研究になりました。たくさん学ばせていただき、感謝の気持ちでいっぱいです。

優秀賞（2名）

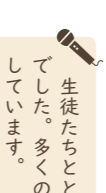
蒲郡市立中部中学校



山本 佳範

社会的事象に関心をもち、課題に対して主体的に追究し、学び合う生徒の育成

〔社会〕



生徒たちとともに学ぶことができた研究でした。多くの人との出会い、支えに感謝しています。

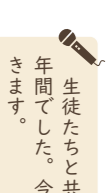
新城市立千郷中学校

酒向 和希



自分と仲間の考えを大切にし、学び続ける生徒を育む理科学習

〔理科〕



生徒たちと共に成長することのできた3年間でした。今後も授業力向上に努めていきます。

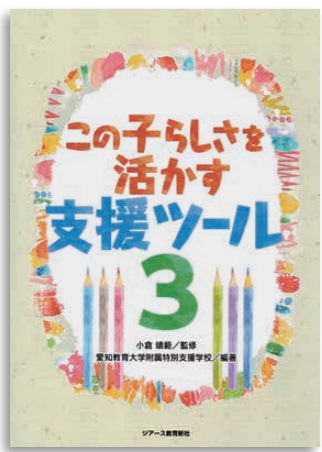
判になったことなどを述べています。更に、刈谷城ができる前に「刈谷古城」が元刈谷にあったこと、徳川家康の実母の於代が、離縁された後によく通った楞厳寺には、水野家の御廟所があることなど、元刈谷が歴史深い地域であることを説明しています。

他の章では、戦争や昭和の暮らし、元刈谷にある神社や寺院、学校や幼児園の歴史についても触れています。身近な所からこの本のページを開き、元刈谷の歴史に関心を持ち続けてくれることを期待しています。

「この子らしさを活かす支援ツール3

著者 愛知教育大学附属特別支援学校

令和5年11月に愛知教育大学小倉靖範先生監修のもと『この子らしさを活かす支援ツール3』を10年ぶりに発刊しました



第三巻では、子どもの学習を支える支援ツールとして、教科ごとに合計23点紹介しています。実際に支援ツールを活用し、主体的・自立的に活動している本校の子どもたちの様子とともに、この子らしさを活かす工夫や支援ツールの作成ポイントなどがわかりやすく掲載されています。特別支援教育に携わる方々だけでなく、多くの皆様の参考になればと願っています。

令和5年度

かきぞめコンクール



「かきぞめ手本」を題材にした第13回かきぞめコンクールを実施したところ、三河地区から小学生の部2073点、中学生の部398点、計2471点の応募がありました。

書家・編集委員の先生方が厳正に審査し、各学年最優秀賞1点、優秀賞2点、佳作7点、奨励賞20点が選ばれました。入賞者一覧をHPに掲載していますので、ぜひご覧ください。



審査の様子

講評

「かきぞめ手本」編集委員長

豊田市立足助小学校長 成瀬 美香

今年も多くの素晴らしい作品に出会うことができました。小学校一・二年生の硬筆作品では、力強い筆圧と丁寧な筆はらいから真剣な思いが伝わってきます。三年生以上の毛筆作品では、滑らかな穂先の動きと美しく整った字形から熱い活力を感じます。中学生の行書作品では、流麗な筆使いと全体の調和美から書き手の豊かな心の在り様にまで触れることができます。一心に文字に向き合い、文字を通して自己と対話する時間が、確かな心の成長も育んでいることを実感しました。いつの時代にあっても、人の手から生み出される文字は、雄弁に書き手の思いを語ります。心と心を結ぶ書字文化が、三河の子どもたちに深く根付き、脈々と引き継がれていることに感謝します。



表彰式の様子

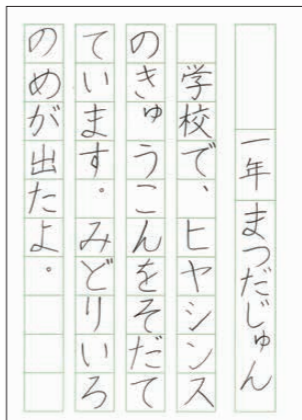
最優秀作品の紹介

本年度のかきぞめコンクールで、最優秀賞を受賞された9名のみなさんの作品を紹介します。

〔小学生の部〕

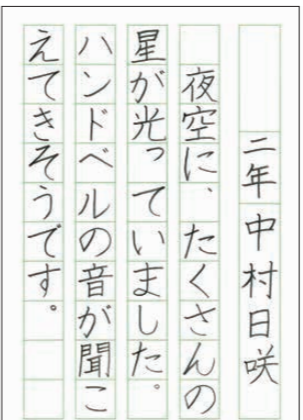
豊田・寺部小学校

一年 松田 潤



西尾・中畑小学校

二年 中村 日咲



令和5年度かきぞめコンクール入賞者（最優秀賞・優秀賞・佳作）一覧

	小1年	小2年	小3年	小4年	小5年	小6年	中1年	中2年	中3年
最優秀賞	豊田・寺部小 松田 潤	西尾・中畑小 中村 日咲	西尾・平坂小 榊原 英悟	刈谷・日高小 飯海 夏実	豊田・大林小 渡辺 由真	安城・桜井小 伊藤 絵天	豊田・前林中 山田 晴	みよし・南中 坂井 来光	安城・東山中 米津 基
優秀賞	豊田・寺部小 多賀千彩希	西尾・平坂小 角 香澄	碧南・棚尾小 井上 大誠	豊田・青木小 寺地愛里紗	豊田・野見小 村瀬 結香	豊田・野見小 水澤 幸香	豊田・美里中 村瀬 朱音	豊田・美里中 内藤 雫月	豊田・高橋中 渡邊菜々葉
	豊田・大林小 高橋 孔明	西尾・吉田小 河野琥太郎	豊田・若園小 堀端 遼人	豊田・中山小 檀浦 由芽	豊田・高嶺小 倉橋 沙良	豊田・中山小 伊藤 颯汰	安城・桜井中 高松 ゆり	豊田・井郷中 杉淵 柊二	豊田・上郷中 大山沙久良
佳作	愛教大・附属岡崎小 戸田琉莉乃	刈谷・日高小 飯海 陽菜	愛教大・附属岡崎小 半田 仁美	岡崎・矢作北小 羽戸 陽咲	豊田・伊保小 林 真歩	岡崎・井田小 近田小茉希	豊田・崇化館中 勝本 真帆	豊田・高橋中 柴田 蒼佑	豊田・高橋中 川合 紋寧
	碧南・大浜小 仲本 亘希	豊田・拳母小 久保田莉永	豊田・大林小 山内 麗愛	豊田・四郷小 梅村 心雪	豊田・前山小 水口優莉子	豊田・青木小 寺地優里杏	豊田・高橋中 加藤 彩羽	豊田・高橋中 村瀬 敦哉	豊田・猿投台中 杉山 桃萌
	碧南・西端小 原田 湖子	豊田・駒場小 近藤 仁奏	西尾・平坂小 加藤 未来	豊田・中山小 伊藤 里紗	豊田・平和小 高木梨緒奈	豊田・井上小 澤田はるか	豊田・竜神中 山口 藍鈴	豊田・高橋中 森下 莉結	豊田・竜神中 大加 柊智
	刈谷・衣浦小 富田 樹里	安城・安城東部小 阿部 蓮奈	西尾・矢田小 長谷 唯花	豊田・高嶺小 近藤 真唯	豊田・大林小 榊原 桃子	豊田・小清水小 佐藤 愛奈	豊田・逢妻中 兵頭 徠夢	豊田・猿投中 近田 梨世	豊田・竜神中 鈴木 心菜
豊田・寺部小 八木 千嘉	西尾・平坂小 花岡 想太	西尾・室場小 伊藤 愛莉	西尾・平坂小 安部佑愛乃	豊田・堤小 沼崎 美希	豊田・竹村小 三浦 唯花	豊田・末野原中 渡辺 翔真	安城・東山中 坂口 蒼依	豊田・梅坪台中 小野 爽	
西尾・矢田小 阿部田望愛	西尾・一色中部小 中津 奏海	西尾・一色南部小 鈴木 歩愛	みよし・中部小 尾藤 道彦	豊田・若林東小 前佛 紗良	豊田・若園小 堀端 慶人	安城・東山中 濱野 蒼太	西尾・一色中 浅井 咲季	豊田・前林中 田中 菜月	
蒲郡・蒲郡北部小 千賀 杏奈	西尾・幡豆小 小嶋 悠仁	知立・知立西小 奥野 喜和	蒲郡・蒲郡南部小 篠原 耕壽	西尾・平坂小 花岡姫菜子	幸田・荻谷小 可知 笑奈	みよし・三好丘中 葉師寺咲来	みよし・三好丘中 井手 敦乃	豊田・井郷中 阿部野々花	

〔中学生の部〕



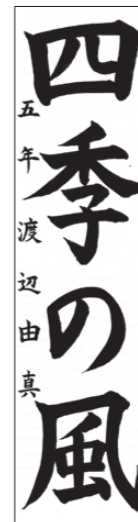
三年 榊原 英悟

西尾・平坂小学校



四年 飯海 夏実

刈谷・日高小学校



五年 渡辺 由真

豊田・大林小学校



六年 伊藤 絵天

安城・桜井小学校



一年 山田 晴

豊田・前林中学校



二年 坂井 来光

みよし・南中学校



三年 米津 基

安城・東山中学校

令和5年度
みかわ彩発見
絵画コンクール

今年で6年目を迎えた「みかわ彩発見絵画コンクール」に、春・夏の部2088点、秋・冬の部1281点の応募がありました。応募にご協力いただきました皆さんにお礼を申し上げます。
本年度の最優秀賞入賞者とその作品、優秀賞入賞者を紹介します。
佳作・奨励賞を含めた入賞者一覧は、本法人HPに掲載しています。



講評

三河教育研究会造形部会長
岡崎市立美川中学校長 安藤 眞樹

今年、春・夏の部、秋・冬の部を合わせて3369点もの応募があり、昨年より増えました。多くの応募があったのも、コロナ感染症の流行が落ち着き、友達や家族、地域との関わりの中で、子どもたちが絵で表現したくなるような心が動く場面が多く生まれたからだと思います。

今年度の作品は、それぞれに独自の世界を表したものでした。その子らしい視点で対象を表現した作品や、体験や経験を通して実感できた感動を表現した作品は、とても魅力的でした。

ご指導いただいた先生方におかれましては、今後もこれまでのとおり、子どもたちの感覚や行為を大切に、生活の形の形や色に関わらせながら表現する楽しさを味わわせてください。来年度も多く応募を期待しています。

「学校賞」を3校に贈呈

「みかわ彩発見絵画コンクール」への取り組みが顕著な学校に対して、本法人から「学校賞」を贈呈しています。

選出にあたり、児童数500名以上の大規模校、児童数150名以下の小規模校、その中間の中規模校に分け、それぞれの中から一校を決定しました。本年度は次の3校です。

《大規模校》愛知教育大学附属岡崎小学校
《中規模校》豊橋市立新川小学校
《小規模校》豊田市立明和小学校

右の学校には本法人から学校賞のクリスタル賞状盾と、応募児童全員に参加賞として鉛筆をお贈りしました。



表彰式（上段：春夏の部 下段：秋冬の部）

最優秀賞入賞者及び作品（秋・冬の部）



かがみもちをつくったよ。
幸田・深溝小学校
1年 原田 朝陽



吉田神社の手筒花火
豊橋・新川小学校
2年 吉原 京平



あけて おめでとうございます
豊橋・松葉小学校
3年 近藤 愛椰



大好きな祭
蒲郡・蒲郡南部小学校
4年 浦川 真緒



笑門来福
豊橋・松葉小学校
5年 近藤 叶椰



家族で初詣
愛教大・附属岡崎小学校
6年 鈴木 はる香

優秀賞入賞者（秋・冬の部）

1年	2年	3年	4年	5年	6年
岡崎・小豆坂小 久野 湊斗	豊橋・新川小 小野 恒	愛教大・附属岡崎小 土井 映里奈	豊橋・岩田小 佐野 凜	西尾・中畑小 須崎 みほ	西尾・矢田小 福間 心
みよし・緑丘小 浅野 結菜	豊川・豊小 大藪 璃座	岡崎・井田小 眞壁 明志	豊橋・前芝小 塩野 羽菜	田原・清田小 白谷 心美	豊橋・杉山小 西川 明里沙

最優秀賞入賞者及び作品（春・夏の部）



おにいちゃんとたのしいプール
愛教大・附属岡崎小学校
1年 岩井 進次朗



ともだちとなつのもしとりしたよ
豊川・豊小学校
2年 大藪 璃座



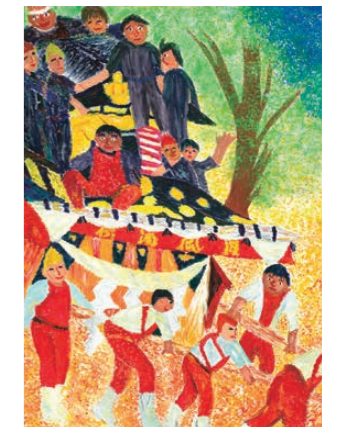
ヨーヨーつりをしたよ
刈谷・衣浦小学校
3年 鈴木 菜々



待ってました！にぎやかな豊橋鬼祭り
豊橋・前芝小学校
4年 塩野 羽菜



おかえり！にぎやかな知立まつり
知立・ハツ田小学校
5年 小笠原 颯哉



山車に乗る男 引っ張る男
豊川・長沢小学校
6年 澤 良太

優秀賞入賞者（春・夏の部）

1年	2年	3年	4年	5年	6年
岡崎・上地小 山本 興平	愛教大・附属岡崎小 貝沼 明莉	岡崎・井田小 眞壁 明志	岡崎・矢作南小 山口 蒼央	刈谷・双葉小 近藤 佳歩	岡崎・根石小 關 權斗
豊橋・旭小 山見 結月	岡崎・矢作南小 熊谷 勢一	刈谷・東刈谷小 有馬 陽菜乃	西尾・西野町小 坪井 然	西尾・西尾小 片岡 美咲	豊田・伊保小 八木 ひらり

特色ある教育活動

「郡市教育・研究助成」を生かした取組紹介

『本気で考え・語る生徒』の育成を目指して

豊橋市立石巻中学校長 河合 宏則

本校は令和3年度に豊橋市教育委員会並びに豊橋市現職研修委員会から学習指導の研究委嘱を受けました。生徒は、五つの小学校から集まるものの、1学年が120人程度の小規模校です。ほとんどの子どもたちが小学校生活を単学級の限られた人間関係で過ごして本校へ入学します。小集団独特の温かさがある反面、大勢の前で自分の考えを発表する様子に課題を感じていました。そこで、今回の研究委嘱が生徒たちを向上的に変容させるチャンスになると捉え、本校教育目標のキーワードの「本気」を取り入れ、学習場面での「本気で考え・語る生徒」を旨として実践を進めました。

一 単元構想の工夫

『出会い』『自力解決』『吟味・更新』『つなぐ』の4つの場面で単元を構成する「石巻モデル」を作成しました。学級全体で共通問題を設定する『出会い』、共通問題をもとに、こだわりを加味した個別問題を設定し、個別学習を行う『自力解決』、自分と他の考えとを比較し、何を補い何を



実験しながら説明する様子

修正したらよりよくなるのかを考えた。伝えたりする『吟味・更新』、習得した学び方や学習に対する意識など、単元の中で得たものを整理して今後につなげる『つなぐ』。授業者は、この流れを意識して構想しました。この「石巻モデル」により、生徒たちが本気で考え、本気で語る姿を引き出すことができました。

二 コラボノートの活用

単元の『吟味・更新』において、他者の意見と自分の意見を交流させるために座席表を活用しました。紙の座席表で、意見交流の手だてにしていたものを、コラボノートで作成した座席表に生徒自らが個々に考えを入力し、交流学びに活用しました。導入の場面や授業中盤の場面で活用したり、振り返りを共有するのに利用したり、その使い方は多岐に渡り、生徒たちが意見を交流させるのに有効な手だてとなりました。

三 お話タイムの工夫

日頃の授業場面だけでは、生徒たちが本気で語る機会があまり多くはないことが課題としてあが

り、毎週木曜日の朝に取り組んでいたお話タイムに手を加えました。時間を5分延ばして15分間とし、振り返りや目標を記入するようにしたり、デイブートを取り入れ、立場を明確にして発言をしやすくしたりしました。教師は、その様子を評価し、本気で考える姿と本気で語る姿を認めるようにしました。また、お話タイムのテーマを生徒たちから募集をしたり、教師が相互参観したりする工夫もしました。

四 成果と課題

石巻モデルを意識した単元構想によって、生徒たちはこだわりもった個別問題を設定するため、自分の考えと友達の考えとを比較する場面などで、本気で考える姿を多く見ることができました。また、お話タイムを継続して取り組んだことや、コラボノートの座席表などで意見を「見える化」したことで、根拠のある息の長い発言、本気で語る姿も見ることができました。

① 授業中発言が少なくなる傾向がある。授業の進行を促す必要がある。	② 授業中発言が少なくなる傾向がある。授業の進行を促す必要がある。	③ 授業中発言が少なくなる傾向がある。授業の進行を促す必要がある。	④ 授業中発言が少なくなる傾向がある。授業の進行を促す必要がある。
⑤ 授業中発言が少なくなる傾向がある。授業の進行を促す必要がある。	⑥ 授業中発言が少なくなる傾向がある。授業の進行を促す必要がある。	⑦ 授業中発言が少なくなる傾向がある。授業の進行を促す必要がある。	⑧ 授業中発言が少なくなる傾向がある。授業の進行を促す必要がある。

コラボノートを使った座席表

子供たちの豊かな心を育むために

岡崎市立山中小学校

きらきらスマイル

代表 小林 香織

《発足》
山中小学校の合言葉「えがおいっぱい」のもと、読み聞かせボランティア「きらきらスマイル」は、平成25年度4月に立ち上げられ、今年で活動10年となります。

当時、地元の保護者を主体に絵本に関心のある有志の方を募りました。そして、読み聞かせ講座の講師や読み聞かせに携わっている方を中心に、学校読み聞かせの意義、読み聞かせボランティアの役割・姿勢、読み聞かせの基本などを学び活動を始めました。

現在は発足当初メンバー3名に加え、地域の方や保護者合わせて13名で活動しています。

《活動内容》

活動日は毎月第2・4水曜日の朝8時10分から20分までの10分間。全校児童を対象に各クラス1名のメンバーが担当し、その月々のテーマに沿った絵本で読み聞かせをします。児童たちがいろいろな読み手と関われるよう、各クラスの担当を毎回かえます。活動日の2日前には、代表に選書内容を報告し、学校へ事前に伝えていきます。



読み聞かせ後『絵本の国』にて

読み聞かせ後には活動記録簿に、絵本の題名、選書の理由、児童たちに絵本を通して感じてもらいたいこと等を記録し、先生方に見ていただくことで連携を図っています。家庭でも読み聞かせの習慣を継続していくために、学期毎に読み聞かせを行った絵本の一覧表を各家庭に配付しています。

《振り返り》

毎学期末にはメンバーが集まり、児童たちの姿や反応で嬉しかったことなどの情報共有をしたり、困ったことや改善したいことなどを伝え合ったりする反省会を行い、互いに学び合う機会としています。

《6年生合同会》

最後の読み聞かせとなる6年生の活動最終日には、心に残る会になるよう、6年生の児童をもつメンバーが中心となって、紙芝居や大型絵本などの読み聞かせを合同で行っています。

活動紹介

学校教育ボランティアグループ

未来へつなぐ伝統の糸

原田市立亀山小学校

機織りクラブ

顧問 小野 敏征

《発足》
亀山小学校のすぐ近くには、神宮神御衣御料所(通称「お糸神社」)があり、伊勢神宮に奉納する「絹糸」を紡ぐ「練糸始式」という神事が古くから行われています。養蚕業や機織りが盛んに行われていた伝統を受け継ぎ、本校では「機織りクラブ」の方々の指導の下、機織りやカイコの糸取りを行っています。

《機織り》

毎月1回、月曜日6限のクラブの時間に「機織り」を行っています。ボランティアの方々は、お昼には機織り室に集まり、横糸用の船形シャトルの準備などを行います。おかげで、子どもたちは機織り室に集まると、すぐにトントンカリン、トンカリンと、軽快な音を立てて布を織り始めます。4月当初、子どもたちはなかなか織り進めることができませんでしたが、ボランティアの方々の熱心な指導で、驚くほどの速さで布を織ることができるようになりました。今



機織りクラブの様子



カイコの糸取りの様子

では、自分の好きな色の横糸を使い、オリジナルの模様を織り込んでいます。3・4年の教室では、5月の連休明けにカイコ蛾の卵を取り寄せ、子どもたち一人一人が、約50個の卵を繭になるまで育てます。毎朝、校庭に生えている桑の葉を取り、日々成長していくカイコを観察します。土日は自宅へ持ち帰り、家族ぐるみでカイコを育てます。

12月、いよいよ子どもたちが育てた繭から糸を取ります。ボランティアの方々に教えてもらいながら、重曹を入れた湯で繭を煮立たせないように煮ます。頃合いを見て、みご箒で繭をなぞり、箒についた美しい生糸を手繰り、糸巻に巻き取っていきます。子どもたちは、キラキラ光る生糸が巻き取られていく様子を見つめます。一つの繭から、約1500メートルの糸が取れます。1ミリにも満たない小さな卵から育ててきた子どもたちは、カイコの不思議さや美しさを肌で感じることができました。亀山の地で古くから続いてきた養蚕業や機織り。その伝統を肌で感じる経験を、これからも亀山小学校の特色の一つとして、大切にしていきたいと思えます。

デジタル採点支援システム 4月 提供開始

文振版

リアテンドラント

1年半に及ぶ
実証研究校からの声により

グッと使いやすくなり
ました!

採点機能がバージョンアップしました

- ① デジタル採点…… 例：正解が多そうなら、すべてを○にしてから△・×だけクリック
- ② 部分点の見直し…… △だけの解答を並べて比較
- ③ コメント入力…… キーボードでも、手書きでも入力できます。線もOK
- ④ 自動採点機能…… 一文字の選択肢なら、AIが自動採点
- ⑤ キーボード採点機能…… キーボードで採点可能
- ⑥ 国語向け 横スクロール…… 解答を横にスクロールできるので、読みやすい
- ⑦ マークシート方式の解答欄に対応

分析機能が充実しました

テスト結果から分析する35種類のグラフが用意されています。

- ・設問ごとの状況（正誤一覧・得点率一覧・設問別正答率など）
- ・経年一覧（得点推移グラフ・単元別グラフ・領域別グラフなど）
- ・個人の状況（観点別得点率・優先復習問題一覧・度数分布表など）

詳しくはこちらから



申請書提出・刊行物注文締切

- 個人研究助成
 - ・(2年次・3年次)実績報告書・申請書提出/令和6年4月30日(火)
 - ・(1年次)申請書提出/令和6年6月28日(金)
- 郡市教育研究・団体研究助成・学校教育ボランティアグループ助成
申請書提出/令和6年5月7日(火)~17日(金)
(団体研究助成は31日(金)まで)
- ◇第Ⅱ期刊行物注文締切/令和6年5月7日(火)~10日(金)



会議の予定

- 第1回文振郡市正副代表者会 4月17日(水)
- 第1回文振郡市事務担当者会 4月26日(金)
- 第1回編集委員長会 6月7日(金)

火事見舞

令和5年10月8日、岡崎市立岩津小学校に「楽しい読書」を各学年40冊寄贈しました。

文振の最新情報は、ホームページをご覧ください。各種応募要項、申請書の様式等もアップしています。

